令和5年度第6回伊賀市行政事務事業評価審査委員会 議事概要

開催日時	2023(令和5)年11月27日(月) 午後1時から午後3時10分
開催場所	伊賀市役所本庁舎5階501会議室
傍聴者数	0名
出席委員	小林 慶太郎【1号委員】 船見 くみ子【2号委員】 井上 順子【2号委員】 藤本 久司【2号委員】 高橋 健作【3号委員】 安本 美栄子【4号委員】 久保 千晴【4号委員】
欠席委員	松村 元樹【2号委員】 尾登 誠【4号委員】 西口 真由【4号委員】
事務局	○デジタル自治推進局 局長 宮崎、行政改革推進係長 大山、主査 大澤、奥本 ○産業振興部 商工労働課 課長 古川、主幹 藤森、主任 林 観光戦略課 課長 山田、係長 川合、松村
議事日程	1 開会 2 議事 ②⑩阿山交流促進施設 ②⑪伊賀焼伝統産業会館 ②⑨だんじり会館 3 その他
配布資料	【資料1】伊賀市行政事務事業評価審査委員会委員名簿 【資料2】伊賀市行政事務事業評価審査委員会条例 【資料3】令和5年度伊賀市行政事務事業評価審査委員会日程表 【資料4】指定管理者制度の解説 【資料5】審査資料 【資料6】本年度審査の進め方 【資料7】前年度の答申に対する取り組み状況について 【資料8】補助金等の適正化に関する指針
議事概要	1 開会 小林委員長による挨拶 2 議事 ②⑩阿山交流促進施設 資料5をもとに事務局による補足説明 【委員】 そもそもこの施設は、合併後において市民目線でみると、集客施設であり収益施設がメインとなる。合併前の阿山町時代は地域の情報

や地域振興等がメインになっており、合併してもその姿勢が変わらないことに疑義を感じる。合併し伊賀市の北の玄関口となった。伊賀市全体での北の玄関口をどうすべきかといった視点にそろそろ変えていかなくてはならない。指定管理以前の問題として、行政での議論を説明してほしい。

➤ **【担当課】** 合併前は阿山町の施設で地域振興を目的にしていた。合併後、伊賀市の施設となり、北の玄関口として県外から甲賀市や名神からの来客もあり、阿山だけでなく伊賀市全体の PR の場として進めている。ただし、東の玄関口としてサービスエリアがあり、西の玄関口には、もう無くなってしまったが上野ドライブインがあった中で、北の玄関口の道の駅あやまとしては地域振興の観点を残し、地域の農産物販売等により収益化することが重要な視点であると考えている。そのため、阿山の物産だけでなく、伊賀市全体の、例えば伊賀ブランド等を置くよう指定管理者には指導している。周辺地域の振興と伊賀市全体の収益施設や観光施設としての両面を併せ持つ位置づけのもと設置している。今後は市単独では出来ない事業や成果が実現するのではないかと考えて、民間の視点を取り入れ公募を検討している。

➤ **【委員】** 市が財源を持ち管理をする施設ではないことは明確である。地域振興とあるが、集客があり収益があれば、地域の方も参画し、雇用も発生し、自然と活性化することになる。今は旧阿山町に固執しているように感じられる。エリアを広げてスケールの大きいものにし、公の施設である伊賀のサービスエリアの持ち方も考え一体で考えると、公募の仕方も変わってくる。いつまでも税金を投入している施設ではないことを明確にし、商工会、商工会議所、双方とも関係しながら、自身でしっかり稼ぎ、発展につながる方向にリードすることが行政の役割である。新プロジェクトも立ち上がり一体的な動きが出来るタイミングで、合併以前にこだわるのではなく、リーダーシップを発揮することが行政の役割である。その上で指定管理するという視点に変えてほしい。

【委員】

この施設と「ふるさとの森」と「阿山文化センター」のプロジェクトについて、施設は委託するのか、譲渡するのか。

➤ **【担当課】** 所管は資産経営課であるが、道の駅を中心として、さんさんホール（阿山文化センター）、ふるさとの森、それぞれ所管が異なる。プロジェクトには入っていないが、スポーツ施設が本来であれば一体となるべきプロジェクトである。今回の公募の場合はあくまでも、道の駅以外は取り壊してもよいが、道の駅は活用する形で公募を図っている。道の駅には、防災、情報発信、地域振興、観光といった災害時の拠点であることから市が関与しなくてはならないことから、売却・譲渡ではなく賃貸借事業として公募し、土地は市のものである。施設は提案の中で建て替えが

可能である。道の駅自体も、このまま道の駅として使用してもよいし、機能を移してもよいとしている。こうすることで以前は指定管理料として維持管理費等を支出していたが、今後は賃貸借料を市が得ることになる。

- **【委員】**市が貸す側で民間が借り、事業を進める。ただ、道の駅という形式をとっているため、市として関りを持たなくてはならないということで理解した。であれば、地域振興だけでなく広域の目的を盛り込んでいただけるとよい。
- **【担当課】**道の駅の機能は残すこと、また元々持っているコミュニティの活性やにぎわい創出の実現を目指す募集要項になっている。伊賀市や地域のためにそのような機能を残し、残りの施設では収益を得るところを担ってもらうような公募となっている。

【委員】

文化センターと、ふるさとの森との連携や管理とあったが、ふるさとの森は管理要素が幅広く、どの程度関与するのか。

- **【担当課】**道の駅は民間事業者からみて旨味がある。採算がとれる施設である。単体で指定管理に出すと、儲かる施設と儲からない施設が出てしまう懸念があり、隣接施設の一体利用を公募の条件として、全ての管理も込みとしている。ふるさとの森と文化センターはそのまま利用してもよいし、道の駅あやま以外の建物については取り壊しの上、自らの提案で別の施設としてもよいとしている。

【委員】

指定管理期間は令和9年度までであるが、現在、民間活用のプロジェクトの募集を行っているという理解でよいのか。

- **【担当課】**現在の指定管理では、包括協定の規定として、途中で条件が変われば、期間中であっても変えられるとしており、令和6年度中に民間活用事業が事業契約を結ぶことになるので、あとは提案事業者がいつから運用したいのかということが決まれば、包括協定期間中であっても変更する可能性はある。提案によっては指定管理期間が終わってからやりますという話になるかもしれない。
- **【委員】**現状の指定管理を途中で打ち切る可能性があるということか。
- **【担当課】**そのとおりである。

【委員】

指定管理者制度の活用から、次のステップについて具体的に進めていただいているが、現状の指定管理者制度の運用について少し確認したい。決算について、指定管理料400万円が市から入り、様々な自主事業等をやっていただく中で計約3000万円という予算規模であ

るが、市からの 400 万円ほどの様なことに充当することになっているのか。またモニタリングについて、満点でない場合の理由を書くようにしているが、保守点検管理や収支が 4 点になり、曖昧な記載となった理由は何か。収支は物価が高騰したことによるものか。保守点検が今後、どのように改善されるのか、現状適正でなかった点は何か。

- 【担当課】指定管理料 400 万円は維持管理に充当している。収益施設であることから自身でテナント化や物販を行って収益化するので、市からは維持管理のみとしている。モニタリングについては、収支は思ったような収益を上げられなかったためと聞いている。施設管理については、駐車場に大型車両が入ることによってアスファルトが凹んでいた。よって 4 点の評価だが、修理は今年に入って対応している。
- 【委員】駐車場の修繕は市の責任か。
- 【担当課】指定管理料には大規模修繕は見込んでいないので市で修繕を行った。
- 【委員】その部分も含めてモニタリング 4 点となっているが事業者としての管理範囲外ではないか。
- 【担当課】事業者は出来る限りのことはやってもらっていた。砂利を持ってきてアスファルトを埋めてもらう等していただいていた。しかしながら自己評価のため厳しくチェックされたのかもしれない。

【委員長まとめ】

民間化にあたっては、「周辺地域の地域振興だけではなく、伊賀市全体での効果を見据えた運営」といった本日の指摘内容を反映のうえ進めていただきたい。

②伊賀焼伝統産業会館

資料 5 をもとに事務局による補足説明

【委員】

伊賀焼伝統産業会館は他の施設の指定管理とは全く意味が違うと考える。その点の認識が必要であることを提起したい。伊賀焼は経産省の伝統工芸品に指定されている。だからこそ丸柱の里で会館を持つべきであり、伊賀焼をやってらっしゃる方が管理すべきであり、利益等は関係無く、伊賀市の宝物を守るということにウェイトを置く必要がある。指定管理が良いか悪いかは行政が考えればよいことで、非公募についても伊賀市における、この位置づけを考えた際、非公募も致し方ないのではないかと思う。この施設で指定管理者を公募して瀬戸焼の人が対応してはよくない。行政責任で建物を建て、無償貸与等で運営し、よって事務所として使われたとしても性質上やむを得ないのではないか。本来の指定管理者制度の趣旨からは望ま

しくないかもしれないが、施設の特徴を一番に考えた場合には、本件については、指定管理者の非公募の動きはあり得る判断だと考える。何のための施設なのかを考えた時に、伊賀市の誇りの一つである伊賀焼を守っていくということになる。このためには必要な対応なのではないかと考える。

- 【担当課】非公募は伊賀焼振興組合の会員大半が伝統工芸者であり、売っているだけでない。伊賀の誇りを子どもたちに教えている。展示だけでなく常に活動を行っている。もし指定管理で公募するとしても、振興組合の方には関わっていただく必要があると考えている。唯一無二の施設である。
- 【委員】唯一無二の伊賀焼の拠点として、ここを活用できるよう維持管理してほしい。伊賀焼は全国的にも名が知られているが、施設を活用する、焼き物を目指す人が伊賀焼を選択する工夫はあるのか。足りないところがあれば公募を実施することでより全国的な人を寄せられるのではないかと。非公募であっても仕様書に入れる必要もあるのではないかと。
- 【担当課】ホームページが弱く、全国的な発信につながっていないことを課題と捉えている。指定管理者選定委員会でも指摘を受けた。こういった部分は民間のノウハウが必要だと感じている。今後は SNS 等も利用し全国発信を仕様書の条件にいれていきたい。
- 【委員】昨年度「いがぶら」で、丸柱の著名な先生の作品を活用して料理をいただくイベントがあった。その先生と直接話ができ、産業会館があり、伊賀市の子供たちも気軽に来ることが出来る発信をしていた。指定管理者に丸投げするのではなく指定管理者と様々な組織が連携できるよう、市が調整していくとよい。
- 【担当課】東京にある三重テラスのレストランでもその先生のお皿が活用されている。この先生のように伊賀焼には、伝統的工芸士以外にも魅力的な職人が沢山いる。収益だけではなく、文化的な要素も伊賀焼が継続していくには必要だと考えているので、例えば文化都市協会等と協力しながら進めていきたい。

【委員】

この施設はもったいないと感じている。周辺民間施設に多く訪れている観光客も素通り、若しくは駐車場に止めるついでに来客であるように思う。商売上手なお店には人は寄っていくが職人や伝統工芸士は商売人ではないため、商売のうまさや、販売促進する方は別にいてもよいのではないかと。陶芸教室もあり、魅力のある施設なのでもう一工夫が必要である。外国人ニーズもあると思う。もっと PR したほうが良い。

- 【担当課】一昨年前の伊賀焼振興組合の理事長は商売上手であった。会員の中に商売が上手な人もいたので、誇りを守りつつも外向けの活動の部分を行政がうまく入って対応していきたい。

【委員長まとめ】

唯一無二の伊賀焼ということで、職人さんだけに任せては、PRなどが上手くいかない。この方たちと連携して実施することは大前提であるが、非公募のままでよいのか。その点は検討の余地がある。

また、指定管理ではなく直営でも良いのではないか。今後は伊賀焼振興組合に非公募で依頼するのか、それとも振興組合を絡めることを公募条件とするか、令和6年度末までに検討のこと。

- **【担当課】**指定管理選定委員会が終わり、採択されて5年延長となった。その後に検討とする。

⑭だんじり会館

資料5をもとに事務局による補足説明

【委員】

事務局から説明のあった決算書の内容について整理したいのだが、土産物販売店スペースの賃料として本来月額40万円は指定管理者が収入として上げるべきだが、これを事務所の賃料と相殺した結果、決算書には載っていないということなのか。再度説明してほしい。

- **【事務局】**観光協会が事務所として使用している分の光熱水費は面積割により自主財源により負担のため指定管理料には含まれていない。また、観光協会の事務所スペースは観光振興を目的として業務を実施していることから市が目的外使用を許可し、かつ使用料は減免している。今回補足説明した内容は、事務所とは別に土産物スペースがあり、これを観光協会が借りている。本来であれば条例で定めるとおり月40万円指定管理者が支払わなければならないが、その分を事務所スペースとは別に減免をしていると担当課から確認していることをご説明した。
- **【委員】**観光協会の事務所スペースは、市が目的外利用許可を出したうえで、減免しているということだが、販売店部分の減免についてももう少し詳しく説明いただきたい。
- **【担当課】**売店の使用料の減免について、条例で月40万円とあるが、指定管理者と協定を結ぶ際のだんじり会館の仕様書に記載した内容では、市長が認めたときに当該利用料金の4/5を減免することが出来るとある。収支決算書にも96万円とあるが、40万円の4/5で月8万円の1年分を使用料収入としている。従って、一部を減免している。
- **【委員】**4/5減免を認めるとなぜ仕様書に記載したのか。
- **【担当課】**だんじり会館条例第6条利用料金の減免というところで、市長が特別の理由があると認めたときは減免することが出来るという規定がある。

- 【委員】市長がなぜ特別の理由があると認めたのか。
- 【担当課】観光振興に寄与する、観光案内を実施するという点で減免している。
- 【委員】観光協会から1/5を使用料収入としている。実際に買物処に出店している事業者がおり、伊賀上野観光協会の会員となり年会費を払っている方が、スペースを利用し土産物を置いている。この事業者の商品が売れると、売上金のいくらかを伊賀上野観光協会が得ているはずである。その分と96万円を相殺したときに、収入はどこまで観光協会へ入っているか。この内容を明確にし、観光協会が上回る収益を得ているのであれば、減免の必要性に疑義が残る。様々なことを明らかにしたうえで協議すべきである。こういったことを把握せず、減免していることは税金が投入されていることからもいかなものか。
- 【担当課】観光協会へ確認し、検討する。

【委員】

だんじり会館は郷土文化を振興する施設だが、他の観光施設のど真ん中であり観光に力を入れているのかと想像するが、忍者変身処については、だんじり会館の設置条例上の目的とは離れた事業であり、だんじりや郷土文化振興とは関係ないと感じる。どのように切り分けているのか。

- 【担当課】忍者変身が文化振興につながるのかという点はあるが、観光目線では自主事業として実施してもらうことで、集客増に値していると考え、実施してもらっている。
- 【委員】忍者変身処の賃料は。
- 【担当課】徴収していない。
- 【委員】問題がないか疑問が残る。だんじりや鬼の展示をする文化振興的な場所であるが、観光の中心エリアで、そのニーズを観光協会が上手に実施している。そこが指定管理の制度とずれが出ているのではないか。天神祭りの保存と管理を重きとしていところに観光協会が入ったため目的が観光寄りになっていないか。
- 【委員】施設の設置目的は揺るがずにこのままいくと置いてよいか。当初から変わり今は観光拠点という位置づけか。市として何を目的にこの施設を維持しているのか。
- 【担当課】基本的な考えは、上野天神まつりを市内外に広く知らしめ、とある。忍者変身処等で観光寄りになっている事実はある。ただ、観光戦略課としては、観光振興に力を入れることがあるため、人を呼び込むことで賑わいをつくり、だんじりの周知をはかっていく。こういったサイクルを考えている。
- 【委員】施設には設置目的がある。担当課が変わろうが、設置目的の変更がない限り、揺るがないものである。この施設で観光振興をやることは本来の設置目的と異なる自主事業である。指定管理団体が自主事業を実施することは構わないが、自主事業であれ

ば忍者変身処としての使用が無償はおかしいのではないか。減免する理由がない。

- 【担当課】おっしゃる通りである。目的に沿った事業を指定管理として捉え、それ以外は自主事業とする方向で必要な賃料については徴収するように整理する。
- 【委員】物販も施設の設置目的に合致しているか。特別の理由があり減免する必要がるのか。そこで観光協会が儲けているのであれば、もう少し市にお金を払って、その方があり方として正しいのではないか。
- 【担当課】整理する。

【委員】

忍者変身処は、だんじり会館の入館料が必要か。

- 【担当課】忍者変身処のみの場合は入館料を取っていない。
- 【委員】忍者変身処のみでも入館料をとってれば、ついでにだんじり会館を見てもらえると思った。忍者変身処があることでだんじり会館の入館者増につながるような工夫があるとよい。だんじり会館はリピート利用につながらない。展示しているものは良いと思うが、魅力が今一つ足りない。
- 【委員】専門家からも、他の施設と比べ入館料が高いことや、内容が金額と見合っていないとの指摘があった。リピートしてもらえるような工夫を検討のこと。

【委員】

全国各所にだんじり会館はあり、魅力の度合いは様々である。だんじり会館を訪れる方の目的は、祭りの時期でないときに行っても、祭りの様子やその地域の伝承がよく分かることではないか。それが訪れる人の満足感になると思う。伊賀のだんじり会館では、こういったことがあまり伝わらないのではないか。忍者や焼き物を合わせる必要もなく、目的に特化してもよいのではないか。今後、契約更新する際や、新しいところが公募する際は、その点を考慮して運営してほしい。かつて留学生をかつて連れて行ったときに、自由に着られる法被や、祭りのフィルムがあり、祭りの様子を体感することが出来て喜んでもらえた。

【委員】

観光戦略課はだんじり会館を類型分けし、何に該当するかを考える必要がある。その上で審査会は指定管理施設としてどうすべきなのか、また、減免等を論じることが出来る。だんじり会館の目的は郷土文化の振興であり、振興しているから減免とあるが、それは減免の言い訳である。外から見ると観光施設である。観光施設である以上、集客、収益が至上命令である。観光協会が担っているのであれば、収益化できる施設を管理しているなかで指定管理事業以外にお金を

稼ぐ事業をするのであれば、自らお金を払うことが原則である。今の体制では様々な形で税金を投入していることから、観光協会の組織そのものを行政が丸抱えしていると捉えられても仕方がない状況である。現状は、その組織を DMO が受けていて行政とは別組織なのだから安易に減免してはいけない。行政は観光協会に DMO をも抱えてもらうことで楽になったかもしれない。だがこの施設はお金を稼げる施設ということで類型分けをして、減免をやめるべきである。その上で、物産協会や商工会議所が協力して、より多くお金を稼いでもらう、その役割が観光協会と商工会議所にある。財界が一丸となる方向性を観光戦略課が実施しなくてはならない。観光に関するアクションプラン等の政策目的を達成するために、市と観光協会はパートナーシップとなり議論、運営をすべきである。減免はおかしい。本来の指定管理の目的が活かされていない。

- 【担当課】施設目的に観光振興を含める必要があるというように理解した。市と観光協会で調整し、対応していきたい。
- 【委員】土台を揺るぎないものにすればよい。
- 【委員】施設の位置づけを観光施設とするのであれば、だんじり会館条例を変えなくてはならない。議会とも議論のこと。逆にだんじりは、郷土文化であり、そのための施設である。という方向で進めるのであれば、上野のだんじりの特徴や意義を発信ができないと郷土文化の振興に寄与していない。他の地域のだんじりとの違いを説明できるか。
- 【担当課】他地域の同種施設を見たことがなく、説明できない。
- 【委員】だんじり会館を観光戦略が所管しているにも関わらず、伊賀上野のだんじりという郷土文化の特性を理解していないのであれば、振興は難しい。どの方向で続けるにせよ今の状態は中途半端である。

【委員】

今後の方向について中心市街地のエリアマネジメントと合わせて民間活力導入を検討するとある中で、観光協会のくみひもセンターや忍者博物館といったノウハウを生かすのであれば、その辺りの連携も必要である。だんじりはユネスコ無形文化遺産であり歴史文化として発信が必要である。包括的にどうするかの方針決めの際に、関わる団体と調整をし、設置条例からの見直し検討が必要である。

【委員】

個人的にも、だんじり会館に商品を置いているので、訪れる機会が多い。観光バスの旅行ルートになっている。客層は外国人、修学旅行の学生の認識である。全国のだんじり会館の中で、この会館がどう違うかといった差別化も大切だが、初めて、だんじりを目にする人の理解が深まるようなものにすればよいのではないか。伊賀上野のだんじりだけでなく、日本のだんじり文化の発信拠点となるとよい。立地

優位性から、施設の中身に限らずある程度決まった数が来るような観光ルートのポイントになっているので、この強みを生かして伊賀上野のだんじりに拘らずそれを活用するとよい。日本で一番、日本のだんじり文化を知ることができる場所。これが実現できればよいと思っている。

【委員】

駐車場は有料である。土産処に少し寄りたいたけなのに有料となるので、駅の30分無料駐車場まで止めに行っている。同じような思いをする方もいると思うので、これを機に整理してほしい。

【委員】

観光は今度大切な産業になってくる。日本全体の人口が減る中でインバウンド需要が必要である。観光協会含めてニーズに寄り添える体制をつくれるとよい。だんじり会館は、どの様な切り口でもよいので、また来たくなる、また会館に行ったことがきっかけとなり祭りにも来たくなると思うような体験型のイベントもふまえた施設になるとよい。半年毎に行われるだんじりの入れ替えもイベントになるのではないか。もっと人を呼び込む工夫ができそうだと感じている。

- **【委員】**だんじりそのものを活かして、観光に活用できるとよい。だんじりそのものを体験できるとよい。
- **【担当課】**上野のだんじりは鬼行列が特徴である。鬼行列についても、設置だけでなく詳しい説明を入れる等工夫をしていきたい。体験型についてはスペースの限りがあることや、だんじりが町の持ち物であることから、取組み時には所有者の町の方と協議をしていきたい。

【委員】

いつまでに検討するか。令和7年度中には次の公募をすることになるので、遅くとも令和6年度中に条例改正も含め、方針検討のこと。

【委員】

モニタリングのあり方、だんじり会館の活用に向けて、土産処のみ利用した方への利用者アンケートは取れているか。

- **【担当課】**伊賀市に来られた観光客向けへのアンケートは行っている。だんじり会館のみではない。
- **【委員】**今後の取組みについては、かなりのエネルギーがいると思うので、だんじり会館独自のアンケート調査をした方がよいのではないか。ノベルティをつける等して実施してもよい。ユーザーニーズを把握する必要がある。

【委員】

鬼行列の仮装は期間が決まっているか。観光客が仮装しても問題ないのか。だんじり会館で仮装を提供すれば、文化の振興に役立つのではないか。

- 【担当課】祭りの運営は上野美術保存会で実施しており市だけで判断は出来ない。
- 【委員】本物は使わないという前提で、可能であれば取り入れてほしい。
- 【委員】本物は町で保管しており、会館でも鬼行列はレプリカのはずである。町の人だんじり行事に強い想いを持って、この文化を大事にしている。ただ、法被等は誰かに貸すことは可能かと考える。
それよりも、もっと祭りに来てもらうことがよい。祭りの時にだんじりにのれる、曳けることはPR出来る。人が足りないので、外国人も観光客も参加できる。PR出来ていない。お囃子体験も祭り前に実施している。だんじり会館と祭りのイベントとの兼ね合いやつながりが出来ていない。
- 【委員】祭りに行けない人でも楽しめるように、気軽にこのエリアだけはお祭りをして良いといった場所があり、プラスチック製の鬼仮面を用いて、存分に鬼を楽しめるとよい。
- 【委員】祭り本体の運営をしている団体と協議し、知恵を出し合ってやっていければよい。

【委員長まとめ】

- ・市としての施設の位置づけを再度検討し、明確にしていきたい。
- ・そのうえで、指定管理事業と自主事業を区分し、自主事業の減免については改めてその必要性を検討していきたい。
- ・整理の期限としては、令和6年度中に終わるべきである。

3 その他

【委員長】

意見や審議が足りない点等ないか。

- 【事務局】だんじり会館について、様々意見をいただいたが、減免だけでなく、そもそもの施設の意義を明確にすることが重要といったまとめ方で問題ないか。
- 【委員】施設の位置付けを明確にしたうえで市としてどうするのか、その上で減免の検討の必要がある。そこまで含めて来年度中に完了させること。
- 【事務局】だんじり会館はもともと文化施設としてオープンしたが、観光協会が入り観光施設としての役割の方が大きくなっている。条例のとおり戻すのであれば、世界遺産になったことを踏ま

え、文化振興施設として原点回帰し、美術保存会等が指定管理をうけてくれるような形になれば、世界遺産であることの発信が進むかもしれない。観光協会自体が旧庁舎に入る可能性がある。だんじり会館の中にある事務所が移れば、もう一度文化施設として原点回帰できる。文化振興を一生懸命することが観光にも寄与すると思うが、観光協会が入ったことで土産物の販売であったり、観光寄りの施設として当初の設置目的から歪んだ運用になってしまった。旧庁舎の新規活用プランには物産スペースも設けられるので、自然とその機能が旧庁舎に移る気もする。しかしながら、旧庁舎の整備とともに実施することから、長い期間が必要になると考えられる。

- 【委員】方向性自体は年内に確定させることが大事である。

【事務局】

だんじりに会館に関して、土産物の販売は観光振興につながるとして減免とあったが、ではどういったケースであれば減免で無いかと感じていた。この施設に限ったことではないが安易に減免しすぎているかもしれない。これを改める場合に各課にそれぞれ減免を考えていただくべきか、それとも全庁的な統一した規程がまず必要とお考えか。

- 【委員】予算編成の際に、財政部門で精査されないのか。国では綿密に見ており、大きく削られたりしている。市では見ないのか。また監査委員でも見ていないのか。本来機能されていけばやみくもに減免とはならないはずである。
- 【事務局】現在細かく内容を示すような規定がない。また減免については、入りの部分であり、財政も厳しく見ていないのではないか。
- 【委員】公の施設を一本で括ってしまっている。福祉の会館であろうが、観光も兼ねた観光であろうが、同じ考えでいることが間違っている。目的が違うにも関わらず指定管理施設として一括でくくるからいけないのではないか。目的が違うのであれば税金を投入する金額も変わってくる。物事を施設毎、政策毎で総務部は考える必要がある。
- 【事務局】全庁的な統一した規定による減免の可否ではなく、まずは施設の目的や、行政が何を達成してほしいのかという点を改めて考え、その上で施設ごとに減免か減免でないか考えることが大事であるという理解をさせていただいた。
- 【委員】類型分けを明確にすること。
- 【事務局】負担の適正化がよく問題になる。公共施設の入場料であったり、使用料との反面にこの減免という規定がある。負担の適正化をどう公正にもっていくか、基準が伊賀市は弱い。減免にあたっては管財課の内規を用いている。管財課が公の施設の使用料を徴収する際に、公共的団体であれば50%まで減免が出来る

だとか、公益性があれば等、公共や公益の基準が曖昧ではあるが、一定の基準を設けており判断基準となっている。そこに本来であれば大きな視点、公共や公平や育成といった視点があるが、施設によって何が適正なのかという視点を担当課で持っておらず、次の代にも引き継がれていない。

- 【委員】公共、公平な団体という文言自体曖昧である。観光協会といった公共団体であっても施設の目的に照らした際に、減免が適しているかといった議論もある。施設の設置目的も総花的な書き方であり、どうとでも捉えられる。本来の設置目的を明確にし、そこに照らし合わせたときにどうなのかの判断が必要である。
- 【委員】非効率を生み、さらにお金が多くかかっている。類型分けをすれば、スリム化できる。
- 【委員】支出だけでなく収入についても深く考える必要がある。過度な減免で本来の収入を得られていないことに気付かなければならない。

【委員】

来年度の参考に、行政に3点意見がある。

- ・ 審査委員会として、指定管理の個別審査を市長から諮問されている。指定管理ありきの導入の有無、そこが担当課も曖昧である。指定管理者制度の有無、必要性について、全庁的に施設の設置目的や機能特性を施設毎に類型分けをして、その上でこの施設は指定管理にしたという経緯を審査委員会に示してほしい。前段がなかったため。今後は対応してほしい。
- ・ 条例を整備すること。手続き条例や設置条例、設置条例には目的が記載されているが、漠然とした記載である。政策目的を明記することが書かれていない。指定管理者制度を導入し運用する際に、モニタリングや選定委員会の在り方等も条例に入れ整備のこと。これがないので運営がまちまちになっている。指定管理者制度の利点や欠点が分析されていない。政策目的を達成するには長期間の指定管理が必要であり、雇用の問題も加味したことを実施する、ただただ経費削減が評価の中心となった指定管理者制度が現存している。
- ・ 非公募がたくさんある。5条適用、手続き無し＝市長の権限で事業者を決めると解釈したが、手続きをしなくていいという解釈だけでとらえた時には、誤解を招く。伊賀市は合併の悪い点が続いている。小さな町であり、公募の選択肢が少ない場合もある。住民サービス向上を考えると、市民にとっては非公募でよい場合もある。なぜ非公募と判断したか説明できる体制が行政にはない。この体制を確立のこと。すべて指定管理を出す以前の実施事項である。
- 【委員長】部分部分では、答申書にも記載がある。ご意見反映できていない部分は、4日に付け加えていければと思う。

【委員】

今回は総務課も入った議論になるということで、今お伝えしたいのだが、大山田農林公社移管後の民営化について、指定管理者制度個別の審議内では言及しにくい内容であった。伊賀市が 1/4 以上出資するいわゆる外郭団体の中の政策関連団体については、次回の協議のなかで総務課としっかりと情報共有させてほしいと思っている。自治協の組織は上位の条例の中で、活動拠点として位置づけられた中で、指定管理がそぐうかそぐわないか類型の話になるが、外郭団体と指定管理のあり方についても答申の項目として挙げてよいと考える。総務課の考えも聞きたく、事前に総務課へその旨を伝えてほしい。

※『類型』…設置自治体において、施設の設置目的と機能特性を踏まえて施設を分類すること。

○担当課回答内容

【事務局】

審査当日の質疑において、担当課が回答できなかった分の後日回答である。確認いただき 12 月 4 日の答申まとめ時に活用いただきたい。

担当課回答内容（スポーツ振興課）

日時：令和 5 年 10 月 23 日（月）

場所：伊賀市役所 5 階 501 会議室

案件：「⑥伊賀市体育施設（いがまちスポーツセンター）」

Q：指定管理者業務報告書（令和 4 年度分）中のいがまちスポーツセンター会議室の使用のところで「使用総数」の人数と「有料使用」の人数に差があるのは減免しているためか。

A：減免はしておりません。

人数の差はいがまちスポーツクラブの自主事業参加者の人数で、自主事業の場合、会議室使用料が発生しない為、「使用総数」の人数と「有料使用」の人数に差が発生するためです。

※自主事業は参加料を徴収している。

担当課回答内容（農林振興課）

日時：令和 5 年 11 月 13 日（月）

場所：伊賀市役所 5 階 501 会議室

案件：「⑩伊賀市資源循環型農業推進施設（菜の舎）」

Q1：一点目は、菜種油は、栽培面積も合わせてどのくらいの量で、どれだけの油の摂取が可能なのでしょうか？例えば田んぼ 1 反

当たりでどのくらいの油が絞れて、その場合の買い取り価格はいくら位か。

【1反あたりの菜種油量】

1反あたり平均収量 87kg (5年度見込)

菜種 1kg あたり 250~300ml 搾油できる。(ミニボトル 5 本分)

ゆえに、1反あたり、 $21,750\text{ml} = 21.7$ リットル

なお、市内の圃場総面積 $345,091 \text{ m}^2 = 34.5\text{ha} = 372.6$ 反 (1ha = 10.8 反で計算)

【菜種買取価格の算出根拠】

菜種の品質を 6 ランク (A、A-、B、B-、C、D) に分け、それぞれの単価 (100 円、95 円、90 円、85 円、80 円、20 円) に菜種重量を乗じて計算しています。

令和 4 年度の場合、A : 31,779.3kg、C : 152.8kg、D : 309.6kg でしたので、

$(31,779.3\text{kg} \times 100 \text{円}) + 152.8\text{kg} \times 80 \text{円} + 309.6\text{kg} \times 20 \text{円} = 3,196,346$ 円となりました。

Q2 : 近年の推移として、5年間くらいで構わないので、どれくらいの面積で作付されて、新しくできたオイルから今年はこの製品がいくら売れたかは、確認できるはずである。収量と販売高の推移を説明いただきたい。

買取量と売り払い額の推移は下表のとおりです。(指定管理者から提供)

	買取量[kg]	売払い額[円]
平成 31 年度	10,722.8	10,809,980
令和 2 年度	9,826.9	6,949,913
令和 3 年度	10,974.0	8,976,248
令和 4 年度	33,007.7	9,647,788

収量は、令和 3 年度までは 10t 前後で推移していました、4 年度が特に豊作となり 33 t の買取量となりました。

一方、売り払い額 (搾油した商品の販売額) は、毎年同程度で推移しています。

(販売額のため、必ずしも買取量と比例するとは限りません)

Q3 : 令和 4 年度 (菜種搾油施設管理・運営事業) 決算書について、委託料に菜種精算 2,427,602 円、菜種購入に 3,196,346 円とある。委託の菜種精算について、何をどの時に支払っているのか、具体的な事例と共に教えてほしい。

(決算書) 支出 : 委託料「菜種精算」の内容は、指定管理者が大山田ファームや「ゆめ田んぼ」に菜種の刈取作業を委託しており、この費用です。

8/25 (菜種刈取代) ゆめ田んぼ 1,429,332 円
3/10 (菜種刈取代) 大山田ファーム 973,020 円
10/12 (菜種刈取代) 個人 11,000 円 ※研修受入
12/6 (菜種刈取代) 個人 14,250 円 ※研修受入

Q4：施設の使分け方を伺いたい。大山田農林公社が指定管理として入り、公社の搾油のみ行っているのか。それとも市民が栽培したものを持ち込み、精油後持ち帰るということも考えられるが、それが一般的な流れなのか。
例えば、公社が買い取りを行うことが一般的なのか。製品製造を行う業者も使用しているのか、市民（個人事業主、自家消費）も使用しているのか、その辺りを教えてほしい。

【当日の担当課回答】

別途確認とさせていただきたいが、現状としては、菜種用のコンバインを持っている方、アタッチメントを持っている方はいないため大山田農林業公社に刈取りを依頼する方が多い。大山田農林業公社にお願いして搾油までしてしまう方が多い。（菜種自体は大山田農林業公社が買い取っている。）

【今回補足】

市の委託事業である『菜の花プロジェクト』では、9月頃に昨年度菜の花を栽培した方等に搾油用・景観用菜種を配布しています。また、市HP等で当該事業の告知を行い、その他の希望者にも菜種を配布しています。

この搾油用菜種を栽培する農家（以下「栽培者」）全員に対し「作業委託申込書」（別紙）を渡しています。

大山田農林業公社（以下「公社」）、自主事業として、栽培者から作業委託申請に基づき「菜の花の刈取」「運搬」「乾燥・選別」および「搾油」を行っています。栽培者は以上の過程において、公社に対し料金を支払うか菜種を物納するかを選択しています。

また、公社は菜の花プロジェクト以外で菜の花を栽培している方（長田地区住民自治協議会や自家消費を行う個人の方、製品製造を行う業民間事業者等から）の刈取りや菜種の持込みについても依頼に基づき対応しています。

したがって、公社は栽培者からの依頼を受けて菜の花の刈取から搾油までを行っており、搾油用菜種を栽培する方は誰でも間接的に当該施設を利用することができると考えられます。

栽培者は搾油にかかる利用料を支払い、菜種油を持って帰ることもできます。実際に事例はありませんが、自ら栽培し刈取した菜の花を持ち込むことも可能です。

なお、公社が自らの圃場で栽培した菜の花についても、他の栽培者と同様に条例に基づく利用料が発生しますが、実際は物納により搾油を行っています。

なお、利用料金は「伊賀市資源循環型農業推進施設の設置及び管理に関する条例」第7条にて定めがあります。

担当課補足事項：当該施設は公共施設としての用を為しているか。

地方自治法第二百四十四条（公の施設）の要件にある、住民が誰でも当該施設を利用できること（同条第2項）について、搾油設備の操作は専門的な技能を要し、また衛生面からもこれを市民が自ら行うことは現実的ではありません。しかし、市民が栽培した菜の花（菜種）を持ち込んで、圧搾・精油した油を持ち帰ることができ、施設の利用は広く市民に開かれていると考えられるため、公共施設としての要件を満たしております。

（包括協定書仕様書にも記載あり）

○伊賀市資源循環型農業推進施設の設置及び管理に関する条例（利用料金）

第7条 前条の規定に基づき使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、利用料金を前納しなければならない。

2 施設の利用料金は、別表第1のとおりとする。

3 施設の附属設備等の利用料金は、別表第2に掲げる額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定めるものとする。

4 利用料金は、指定管理者の収入とする。

別表第1(第7条関係)

使用室名	利用料金	
	1時間	
交流室		210円

別表第2(第7条関係)

附属設備等の名称	区分	金額	備考
乾燥・調整用機械器具	ナタネ搬入時重量1kgの処理につき	60円以内	ナタネ乾燥重量の10%を金額のかわりに物納することができる。
	ナタネ以外搬入時重量1kgの処理につき	110円以内	
搾油・瓶詰用機械器具	ナタネ乾燥重量1kgの処理につき	210円以内	ナタネ乾燥重量の20%を金額のかわりに物納することができる。
	ナタネ以外乾燥重量1kgの処理につき	420円以内	

○レビュー結果整理シートの審査結果について（素案）（第2回～第5回）

○事務事業の評価結果の審査について答申書（案）

【事務局】

議事録をもとに事務局の方で答申書及びレビュー結果整理シートの素案を作成した。目を通していただき、4日最終日に議論していただきたい。

➤ 【委員長】委員の皆さんは目を通したうえで、次回議論に臨む

	こととする。
--	--------

以上